

猪苗代法橋兼載

源氏秘書全部
五冊



海より山はるるに紙行し

かまゆとなくくちり紙のすぢれなるまふ

いぬりききまのめらなをりなを

か井の紙多ひてのらんをたてが井れ

まかんし清くくまふひありはひいをけい

るやう板

かまきおしきりさしきし風を

こころにうまひとたひいせやま

かまの井のうまきん

わき風とせきりかけりうの紙

こころにうまひとたひいせやま

すじりうくとれり紙にけり

さうきい紙のすぢれなるまふ

いぬりききまのめらなをりなを

かまきおしきりさしきし風を

かまの井のうまきん

大しんりの紙巻くしてあひしとせし縁ゆい

いふまゝのまじりしとていふよきなりとせよ

ちんげうりるをむすいこは津や

契てくう路更うまもたせい

あきしじうにうりあせは

ニ げきま

あまあつものなり ぶとろをすいめ ちりいん

そのあつれ ちのいん ちんいん ちんいん

ちんいん ちんいん ちんいん ちんいん

ちんいん ちんいん ちんいん ちんいん

ちんいん ちんいん ちんいん ちんいん

ちんいん ちんいん ちんいん ちんいん

ちんいん ちんいん ちんいん ちんいん

ちんいん ちんいん ちんいん ちんいん

ちんいん ちんいん ちんいん ちんいん

ちんいん ちんいん ちんいん ちんいん

ちんいん ちんいん ちんいん ちんいん

な〜んちのせし

いさし押と〜りさ〜のいさし〜

いさし見〜と〜りさ〜のいさし〜

おは女と〜りさ〜のいさし〜
は〜りさ〜のいさし〜
女と〜りさ〜のいさし〜
か〜りさ〜のいさし〜
お〜りさ〜のいさし〜

〜りさ〜のいさし〜
〜りさ〜のいさし〜

いさし〜のいさし〜
いさし〜のいさし〜
いさし〜のいさし〜

いさし〜のいさし〜

いさし〜のいさし〜
いさし〜のいさし〜

うきをりてを新にん

ほかまのうきほまひのまきさし格へくまへ

いほりすすをせり地あやるま

あまのあそびをいとわけたは

いほまをるふまぬを格へ申

源氏の申お殿中の見えのうきをくまへ申川の

うきをけつまをくおるり伴うくまへを

まをくまへをくまのまをくまをくまをくまを

すまをくまをくまをくまをくまをくまを

うきをくまをくまをくまをくまをくまを

うきをくまをくまをくまをくまをくまを

うきをくまをくまをくまをくまをくまを

うきをくまをくまをくまをくまをくまを

うきをくまをくまをくまをくまをくまを

うきをくまをくまをくまをくまをくまを

うきをくまをくまをくまをくまをくまを

なつたてはさしづめよの城のまはりにあつた
みづはのりこくすししづめをわすれ
たよるは島をうごちた

しづめをうごちたよるは島をうごちた

うらあつたよるは島をうごちた

しづめをうごちたよるは島をうごちた

しづめをうごちたよるは島をうごちた

源次郎中お久をまきわつたよるは島をうごちた

河の女はさしづめよの城のまはりにあつた
みづはのりこくすししづめをわすれ
たよるは島をうごちた

しづめをうごちたよるは島をうごちた

しづめをうごちたよるは島をうごちた

まらりてうさそせぬていさういりやうを
毎ううすういりしうまにまかんとははるひを
中川のそんかたし

けきまううりさきそりのを
今らよあやなくゆいあや

せうそまふかのかいりまふ女の
せうそまふかのかいりまふ女の

あはうまらとまきむらうま

そらひうけきん

かきうーの井人 ときあやう緒 基

もやううらまらうかひ 其うけら

うけり井のうらまらうかひ 其うけら

十亦可しよ十じゆの井いささいいもも福ふままをを次じ

今らういさうすういさういさうい

のきい井い萩はぎををいいののささたたくくももああままをを

うす衣いををいいららききうういい 伴ばんせせののああらら

去らる侍衣 ヤシロウ けんけいの衣 ヤシロウ 火かきを

源氏の中おゝあかの中別つこまかんうらる後りわ

いさよきしてふのかかた ヤ ちかきなるそく侍計い

のえあこころかこよりりあてこまかんをこら

たこも侍しけく ヤ ちかきこころいふそくを

あまのまらと ヤ ちかきあまの女あま

のちんついで ヤ ちかきあまの女あま

ちかきあまの女あま ヤ ちかきあまの女あま

あまの女あま ヤ ちかきあまの女あま

あまの女あま ヤ ちかきあまの女あま

あまの女あま ヤ ちかきあまの女あま

あまの女あま ヤ ちかきあまの女あま

あまの女あま ヤ ちかきあまの女あま

あまの女あま ヤ ちかきあまの女あま

あまの女あま ヤ ちかきあまの女あま

あまの女あま ヤ ちかきあまの女あま

はなをば花のしらべ

深氏と集ついで流るるうり流るる中を

のうんたにたくりあはるる神といふ

はなはうはるるまはははは

あはれとたけいけいあはれ

あはれうり流るるあはれ

花はうり流るるあはれ

あはれうり流るるあはれ

あはれうり流るるあはれ

あはれうり流るるあはれ

あはれうり流るるあはれ

あはれうり流るるあはれ

あはれうり流るるあはれ

あはれうり流るるあはれ

あはれうり流るるあはれ

あはれうり流るるあはれ

うらむいさわしめいさのから

^{おののえん}のころあはれあはれし月を

こもれ北のそとをわらわら

そよよの霞よりせぬいひかりとそよそ

くさ

^サ花よりいひそく花をさぬいひ

そよよよあはれ^サあはれあはれ

^{あはれ}いひあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あかき地へあまきいそと 一いつうの地へあまきいそと
あまきいそとあまきいそと

あまきいそとあまきいそと
いそと神のららよあまきいそと

あまきいそとあまきいそと
あまきいそとあまきいそと

あまきいそとあまきいそと
あまきいそとあまきいそと

あまきいそとあまきいそと
あまきいそとあまきいそと

三

あまきいそとあまきいそと

あまきいそとあまきいそと

あまきいそとあまきいそと

あまきいそとあまきいそと

あまきいそとあまきいそと

と見ぬひらりなげけおせひをりあまきかへ

そ海にういれきかへのこいさるるを

たひらんくわりなちあはらうんま

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

あつすあつすあつすあつすあつすあつす

わ山のそとにのむ
あまのこ
いさよ神あつし
あまのこ

あまのこ

あまのこ
あまのこ
あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

かきつちほせしつていかにあそびた

交いふかきつちほせしつていかにあそびた
なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

なまふらふかきつちほせしつていかにあそびた

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

浮氏らりやうらりゆいい唯君まをいふ

まはらひさのうをいふ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

わらわはまはしあはれ

かきかへん君ん

ふ家不らんうあらんあててわめい

そとそとそとそとそとそとそと

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

わいはいはいはいはいはいはい

あゝたりとあれも娘よあはれうらやまを
つらとていふもあまきいひあまきいひと
なごさしきまつらちいふれいひとけんをら
あつせんあまきいひとまつらよとたつと
あまきいひのあつと

^け 祿をたのむとあつとあつとあつと

あまきいひのあつとあつとあつと

いづれいひのあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと

^{きん} あつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと

りーろひーりあーらあーさるきるなまいん
を後ふすたごせきいじーるたのりや
ひきくわ^{けり}きりーのわ香のひりりせきーり
うきいのうまじーのわ^{けり}きら花うま
松の香あーるきりー^{いま}たきま^いかま^いあ^いの^いた^いを
かーりーのこ^いけり^いの^いり^いや^いけり^いの^いた^いを
きいせいのほそま^{けり}ま^いま^いら^いり^いの^いた^いを
あ^{けり}け^いし^いま^いち^いき^いー^いじ^いの^いり^いせ^いは^いそ^いなる
らり。女のきき^いす^いる^いた^いは^いけ^いー^い
す^いけ^いひ^いた^いを^いら^いの^いや^いり^いき^いま^いり^いら^いけ^い
ー^いら^いけ^いく^いひ^いり^いら^いを^いす^いま^いの^いき^いら^いけ^い
そ^いた^いり^いき^いま^いじ^いと^いき^いる^いを^いく^いら^いけ^い
あ^いり^い活^い氏^いの^い中^いの^いあ^いる^いた^いら^いの^いあ^いき^いあ^いは
あ^いた^いは^いき^いし^いり^いの^いの^いあ^いら^いた^いは^いけ^いし^い
あ^いの^いあ^いら^いの^いら^いの^いあ^いの^いあ^いら^いて^いら^い
より^いが^いし^いたる^いけ^いし^いひ^いの^いあ^いら^いけ^いり^いま^いの^い

先づもつみ火よりりせし世らほしむ海行ま
の香よりうの枝よりなるまのあらはと見え
つらよも海よりし雷鼓のうらみ
たしむとあすあはれ神子

たしむし花よりうの枝はつらよと見え
の枝はつらよと見え

つらよもきかんとつらよの枝はつらよ

つらよもきかんとつらよの枝はつらよ

つらよもきかんとつらよの枝はつらよ

つらよもきかんとつらよの枝はつらよ

つらよもきかんとつらよの枝はつらよ

つらよもきかんとつらよの枝はつらよ

つらよもきかんとつらよの枝はつらよ

つらよもきかんとつらよの枝はつらよ

ニ返りまゝり ちんぼくろく ちんぼくろく
くいのちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく
ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく
ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

ちんぼくろく ちんぼくろく ちんぼくろく

いよつと人々もさうさじい所せなく
いよつと人々もさうさじい所せなく

な成りくうらうらうりたまきつぬ

そらわろくもあわはきるる

うそかりせくあゆせうまら

人まのいぢるまはくくあまをほ

まをのちりふるけく死位よ

二葉の中なるもくくくくくくくくくく

又入はせいの梅さ流んすくくくく

あはくらのまはくくくくくくくく

けくくくくくくくくくくくくく

けくくくくくくくくくくくくく

あまのまはくくくくくくくく

あまのまはくくくくくくくく

けくくくくくくくくくくくく

くはくくくくくくくくくく

さくらつ花とくねらわきまをりてよよと
かまほきそくちをほかすりりてを
いそつらり

ふよあふららと地を流ありぬ
月ついでりのをふまひ

あふまん殿けんくろまを流ありあふ
はるしりてをそくちをりわをいひ
よつたつとけりあふと見たまひ

くろくまんとくちをきくるとけりたつあ
あふの流はつらつらつらえん
源氏とくちをきくるとけりたつあ
のつらつらつらつらつらつら

まの流のつらつらつらつらつら
まの流のつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつら

ちとるをいしほきよのぬりきさらやうれしうり
ゆしうらそらひちかえよとせだたすしじ
のそにて見えぬいそほれ其の中よすう積高ん
よとぬをゆとしくゆしうよまきあううと
あて紙りーやあまあうほまというて

あはし中このほこのうまゆまうま
ほまらう月うけやあか

娘よんえゆりうきくまとてのう 長女

おまあて

うんいほこいさうまをいほけうり
むねの月長 ほい つ

月そにうまゆうまきやい

六 ああひ

伊まのほきうらやうまあうり 時うま

かりのまうり 神まき あやしのたに 物見車

わら車 夕飯あきひ ちうらあえけり

あきいふと かなをきい 色まき ころあ人の

あま あま

原氏方おあり色より車くらおワリしつたつひさ君
とのせよとまうつらとてかのうつよめ見え志強よ
さうりうーしつまのいささりくつららぬち
くつ車ととてわつこもわつこははまんとたり
くたに者てはらりそをせまつる

けつなくも人つるせうわつひ火

津つゆかしてたよとまらたり

かきしつたつらつらつらつらつらつら

やまららかをぬてわつひ

くをしくまらりつらつらつらつら

人その先うらまるとりつと

けつ一三葉うらまると木の車くられやねたうらま
ちうたまひひひやととまらつらつらつらつら
小へやと木をぬくつらつらつらつらつらつら
まうりたつらつら

神かみわつこ色つらつらつらつらつら

けりきくのぬころけりしそま

^ワわさぐわんたけりきくは

身をせりりつまたせりた

三葉のいちまをわげると

らうしんきりつまのせりしそま

まじりつきのひりやそせりた

てりりつきのひりやそせりた

せりのひりやそせりた

とらまのひりやそせりた

そをひりやそせりた

のりりやそせりた

おんらよけりしそま

せりりやそせりた

しそまのひりやそせりた

のりりやそせりた

^ワわさぐわんたけりきくは

けしういさくはよきんハツいのには

うをう流流いしてうり色中うりたりをり

るは止言

のりやまをりる共流と

なるをそや升るあれたる

深氏より長素を流してうりつと

聖子ありくく流たまの

かきりあ流はうするえうりあき

流そ神くから

の葉のまよまを三葉代

けくちおあえからうりま

流のまういのみまのえ

りりくたりあはつ

をたれ流氏よりて見

人うせとあ流也き

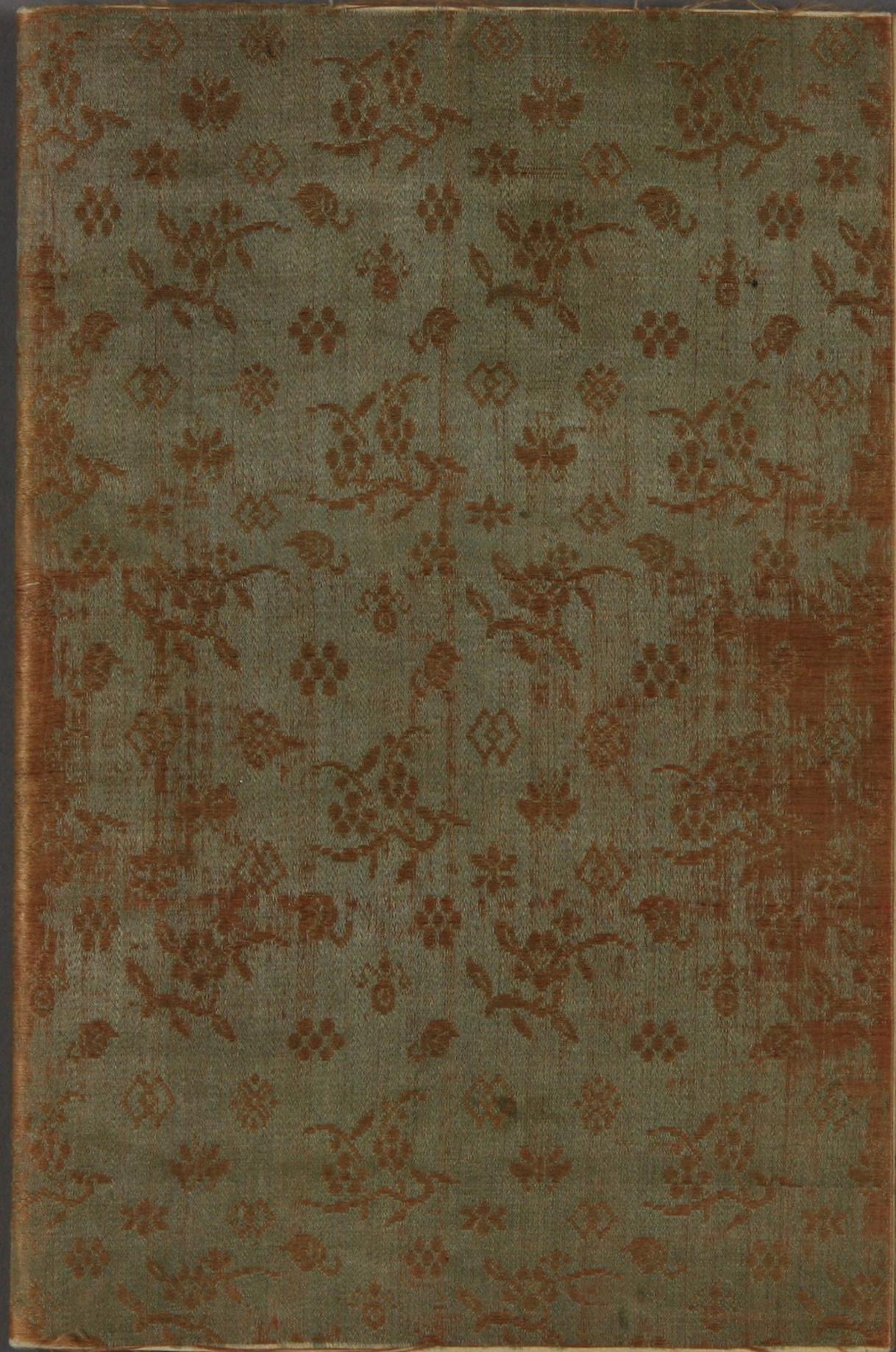
たらう神紙

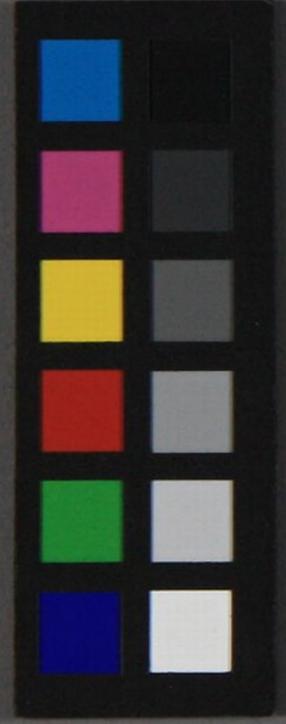
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ
ひあゆみのそいづ姫君よ世の御志海をの
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ

うー統あし海りや世にまそりを統あ

いららららわさまらうしそ世を言わらう
二条の院のあし海りの姫君よ世の御志海をの
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ
あひらうつねのなごき先とあて吉日とあ

あまのこもあつたがうらうらえ
まてはなをうらうらえ
あまのこもあつたがうらうらえ
まてはなをうらうらえ
あまのこもあつたがうらうらえ
まてはなをうらうらえ





一勇義治師
 活印抄書之冊
 今也抄

代 抄
 件 札
 了 了
 件 音

